



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和6年9月30日

さいたま市立土合小学校

「備え」とは

校長 白倉 秀樹

10月となり、暦の上では秋を連想しますが、まだ暑い日が続いております。秋といえ
ば、台風が多く到来する季節でもあります。令和元年度の台風19号では、さいたま市も
大きな被害を受けました。桜区は特に被害が大きい地域でした。近年の台風被害は普段の
生活を一変させます。台風だけでなく、すべての非常変災は人間の社会生活に大きな影響
を与えます。そして、非常変災はいつ来るか予測がつかない状況です。日常生活において
どういう備えをしておくのかということが大切になります。

よく「自助」「共助」「公助」という言葉を耳にします。これは1990年頃から災害対
策に関連する議論等で引用され始めた言葉です。起源は諸説ありますが、江戸時代の米沢
藩主上杉鷹山の言葉からとも言われております。内閣府HPの防災情報に詳細が示されて
あります。

「自助」とは文字通り自らの命は自ら守るという姿勢で、私はこれが一番大切であると
考えます。前述の令和元年度の台風19号の時、私は桜区の小学校に勤めておりました。
避難所を開設した時、幼子を連れた若い御夫婦の一家が避難されてきました。聞くと離乳
食等も含め3日間の避難を想定した最低限の準備をしてきたとのことでした。自分はその
日の夜の分のわずかな食料しか確保しておらず、意識の違いを痛感させられました。施し
を受ける前提で避難すると、避難所の機能が麻痺することも予想できます。自ら準備を怠
らないことがとても大切です。

「共助」は避難所設置に伴う地域の方々の連携や救助活動が一番あてはまるものです。
避難場所は、お住いの住所に伴う学区の学校だけではなく、近隣の公共施設等が指定され
ています。住所によって避難場所が指定されていますが、いざという時指定された避難場
所に向かえない場合もあります。そういった中で、近隣に住まわれる方々が協力して迅速
に避難所設置、運営を行うことが安全確保の第一歩です。平成28年の熊本地震の際は、
避難所運営は自治会やボランティアの方々を中心に行わなければならない状況でした。私
を含むさいたま市の避難所担当職員も避難所に駆け付けますが、初動の1時間がその後の
円滑な避難所運営に大きく影響します。

「公助」は広域救助活動やライフラインの復旧、避難行動を自らとることができない要
配慮者への支援などにおいて無くてはならないものです。非常変災が起きた後、一時避難
から在宅避難と指定避難所避難に分かれます。避難生活の長期化が予想される場合、「公助」
が担う役割は大きなものとなります。しかし、この「公助」は「自助」と「共助」の上に成
り立つものです。この意識こそが「三助」の根幹であると私は信じています。

「備えあれば憂いなし」という言葉にもあるように、日頃の物品の備えだけでなく心の
備えも大切にしていきたいと常々感じる今日この頃であります。